

伊方町議会第75回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
末光 勝幸 議員	1 集落のグループホーム化とデジタル化について	町 長
質問の要旨		
<p>全国で人口が減少し、社会経済の担い手の減少、耕作放棄地、空き家、商店街の空き店舗など、様々な課題により、地域社会全体を支えるため厚生労働省が「地域共生社会」という政策を提言しています。それに呼応してか伊方町でも「集落のグループホーム化」ということで、町民の利便性と暮らしやすさの施策を展開されています。</p>		
<p>その内容は、顔認証、遠隔地医療、新しい交通体系などメニューは豊富であり、過去2年余りで県外の民間の会社に観光事業を含め約8,000万円もの業務委託をしています。</p>		
<p>その間にも、過疎化、少子高齢化は続いており、伊方町の10月末の人口は8,106人にまで減少しました。町民の半数を占める高齢者の方々の声をお伺いすると「顔認証やデジタル化よりも、月に一日でもいいから、病院に行くなどの八幡浜市への往復バスがあれば有難いのですが」というような日常生活の不便さを解消してもらいたい要望を持たれている町民が多いように思います。町が推進するデジタル化とは程遠いアナログ的な要望が多いのも事実です。</p>		
<p>たとえば、伊予鉄バスもさらなる減便を11月から実施しており、新しい交通体系などは、喫緊の対策が求められています。県内では地区住民による相乗り送迎、外出支援、自動運転バスの運行などの、様々な試行がすでに展開されています。</p>		
<p>そこで、先に述べましたように、町が8,000万円かけて推進している「集落のグループホーム化」とデジタル化の成果と効果をどのように町民に還元していくのかお伺いします。</p>		